

事務事業	4019	生涯学習館ジュニア講座開催事業	担当課	まちの魅力推進課	担当係	生涯学習1号館
------	------	-----------------	-----	----------	-----	---------

計画 後 期 計 画 系 画	施策	07	子どもの権利を守り、安全で健やかに成長できるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	250	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
					項	5	社会教育費
					目	8	生涯学習館運営費

法令根拠条例等		個別計画	
---------	--	------	--

実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	H14 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度～	年度
------	---------------------------------	---	------------	------------------------------------	-----	----

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 子どもの健全な成長と居場所づくりのために学校休日の土曜日及び長期休暇に、小中学児童生徒を対象とした講座を開設している。	<input type="checkbox"/>	2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 講座の企画、広報掲載、講座募集チラシの発行、小中学校への募集、参加受付等	主 な 事 業 費 の 内 訳	講師謝礼金
		655 千円
		千円
		千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ・長期講座開催 ・単発講座開催(夏休みと春休みに開催)	事務事業の目的
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 町内小中学生(小学1年生以上)	
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 子どもの居場所の確保 ・異なる年齢の児童生徒が交流できる。 ・体験学習を通して新たな知識・技能が身に付く。	

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値		
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 講座数	講座	22	19	22 (見込)
イ 講座開催数	回	139	80	100 (見込)
ウ				(見込)
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		指標数値		
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 町内小中学生数	人	4,528	4,549	4549 (見込)
イ				(見込)
ウ				(見込)
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		指標数値		
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 講座受講者数	人	目標	390	390
		実績	356	261
イ 受講者の満足度(とても楽しかった、まあ楽しかったと答えた割合)	%	目標	95.0	97.0
		実績	97.4	97.5
ウ		目標		
		実績		
エ		目標		
		実績		
オ		目標		
		実績		

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等						
		受益者負担等						
		一般財源	785	902	655	902		
		合計(A)	785	902	655	902	0	0
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)	562	796	727	386			
トータルコスト(A)+(B)	1,347	1,698	1,382	1,288	0	0		

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
学校週5日制の完全実施により「子どもの居場所づくり」を設定するため、平成14年度より開始された。	・「子どもの居場所リリーフ」が平成19年7月開設。 ・地域社会の変容等により子ども会等の育成会活動に支障が出てきている。 ・小中学校で土曜日に授業やフェスタが開催されるようになってきたため、長期講座企画が難しくなっている。	生涯学習推進委員会から、抽選に漏れる子どもたちがなるべく減るような工夫をしてほしいとの要望がある。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	長期講座については土曜授業や、学校行事が土曜日に行われることが少しずつ多くなってきているため、開講日等の設定が難しくなっている。長期休暇中の単発講座を増やすなどの検討を行っている。 また、大学との共催を増やすことによって、講師謝礼金の削減はできる。	<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	長期休暇中の単発講座を増やすよう努めたが、講師確保や日程が整わず、結果的に昨年より開催数が減少した。次年度は、長期講座について見直し、より多くの子ども達が受講できるような工夫をする。

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	異学年の児童間の交流ができ、体験学習を通して新たな知識・技能を身につけることができる。校区を超えての仲間作りや、地域・サークル活動に参加する子どもの割合を増やすことにつながる。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	次世代を担う子どもたちが参加できる講座や行事の開催は行政の役割である。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	長期講座の開催方法を見直し、例えば同じ講座を前半と後半の2回行うなど工夫することで、より多くの子どもが受講できるようになることが期待できる。
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	この事業を廃止すれば、子どもの居場所づくりの取り組みと生涯学習のきっかけづくりができなくなる。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	より多くの子ども達に生涯学習のきっかけづくりとなる講座を受講してもらうためには、講座数の増加が伴い、それに比例して講師謝礼金も増加となるため削減は難しい。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

ジュニア講座では、毎年抽選が発生し、生涯学習推進委員会からもなるべく多くの子どもたちが受講できる工夫をするよう、指摘を受けていた。それを受けて長期講座の開催方法を見直し、年間の受講で完成するダンスなど以外のものは、3か月や6ヶ月くらいの中期の講座を検討し、また夏休みや春休みに行っている単発講座の数を増やすなどの工夫をする。 また、初めて受講する子が抽選順位の第1位となることから小学1年生の当選確率が必然的に高くなり、低学年ばかりとなることも多いため、各学年で当選割合を設定し、バランスよく構成できるよう工夫する。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	なるべく多くの子どもたちが受講できるよう、長期講座の開催方法を見直し、年間の受講で完成するダンスなど以外のものは、3か月や6ヶ月くらいの中期の講座を検討し、また夏休みや春休みに行っている単発講座の数を増やすなどの工夫をする。 また、初めて受講する子が抽選順位の第1位となることから小学1年生の当選確率が必然的に高くなり、低学年ばかりとなることも多いため、各学年で当選割合を設定し、バランスよく構成できるよう工夫する。